

やすらぎの里からのお知らせ

2023.5.12

村民各位

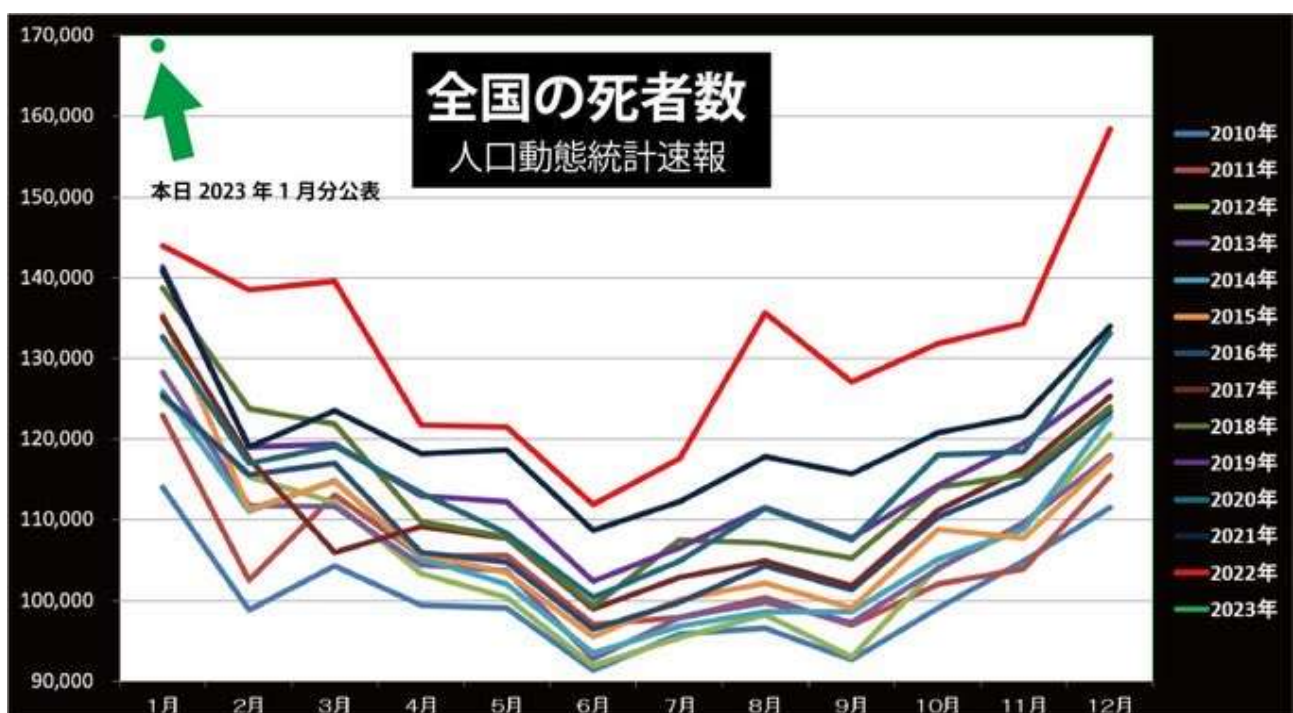
5月8日よりコロナウイルス感染症分類が2類相当から5類（インフルエンザ相当の扱い）に変更となりました。このことに伴い、

やすらぎの里は5月12日より職員のマスク着用は任意としました

また、面会者の方々のマスク着用もご自身の判断で行って頂くことになりました。尚、風邪症状のない方はマスクなしで入館できますが、風邪症状のある方はマスクを着用していても2019年以前のやすらぎの里感染症対策同様、入館はお断りしております。みなさんのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

やすらぎの里感染症委員会

厚生労働省は「病院や介護施設においては今後もマスクの着用を推奨する」との指針を出しましたが、驚異的なマスク着用率や世界一ワクチン接種を重ねている日本が世界ダントツのコロナ陽性率・死亡率をたたき出している事実を日本のマスコミは報道しません。また、異常な超過死亡が日本で発生している事実についても、なぜかどのマスコミも報道していません。（裏面に続く↓）

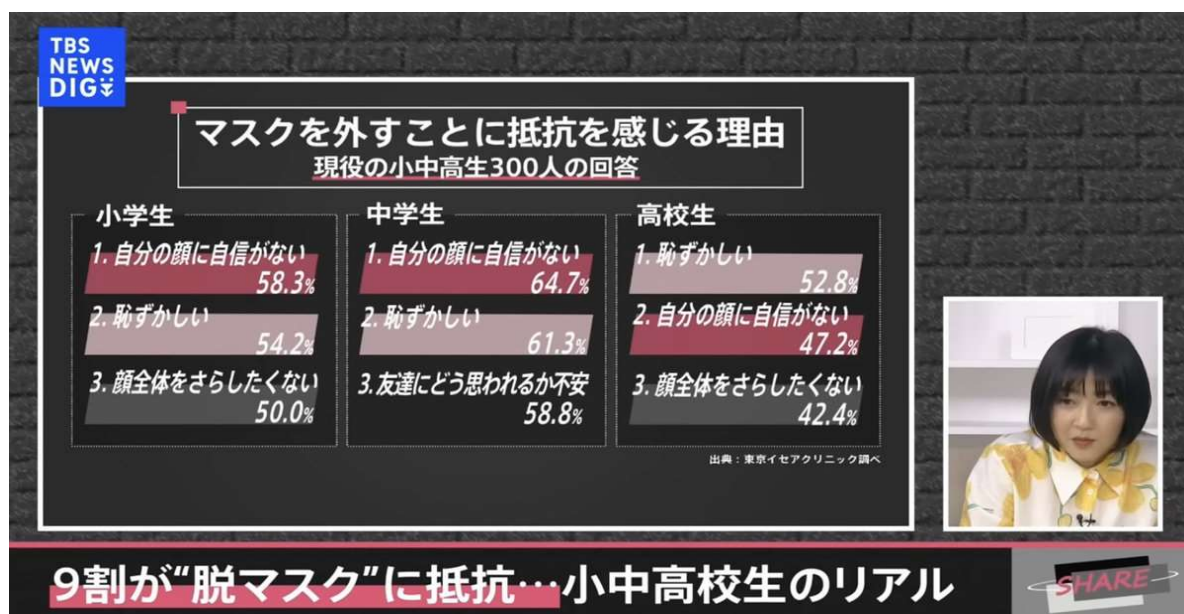


前ページ表(データ元:厚生労働省)の「本日2023年1月分公表(表左上の”緑”の点)」死者数と前年度以前からの死者数増加率を比較すると異常を通り越し、正直不気味であります。国には、数々のコロナ対策(特にマスクやワクチンの効果)について入念な科学的、実証的検証を早急に行う責任があると強く感じます。

諸外国においては、実際のフィールドでマスクを着用している群、していない群とに分けてマスク着用の効果を検証しているようです。その結果は、どの国もマスク着用の有無によって感染率は変わらない、という結果がでているようです。コクランのレビューでも「マスクの感染予防効果は認められない」との発表がなされました。マスクに感染予防効果(マスク着用の唯一にして最大メリット)が認められないのであれば、マスク着用のデメリット(フォーゲン効果によるウイルスの濃縮作用、低酸素による呼吸苦・認知機能の衰え、表情筋の衰えによるコミュニケーション障害等々)だけがそのまま残る、ということになります。

日本ではインフルエンザワクチンの効果について検証した、有名な「前橋レポート」という前橋医師会による執念の現場調査報告書がありますが、ことコロナに関しては、政府・製薬会社から独立した機関によるコロナワクチンの効果についての公正な調査報告などは見当たりません。マスクに関しても、前提が現実的とは思えないような結論ありきの恣意的な「富岳」によるマスク飛沫のシミュレーション結果、あるいは、どこどこ大学がコンピュータでシミュレーションした結果「マスクに感染予防がある！」といった話題はもれなく多くのマスコミがハリきって報道していました。しかし、日本の現場において、マスク有り無しでその効果を比較検証したデータを私は知りません。それ以前の問題として、マスク着用の(正式な?)トレーニングを積んできた私たちからすると、現在の日本のナンちゃってマスク着用の仕方を見ると、マスクを頻繁に付けたり外したり、マスクのズレを修正するため表面を豪快に何度もつまんだり、またその手で目をこすったり、テーブルに無造作に置いたり、ポケットに仕舞い込んで何日も使う等々・・・感染症対策としてのマスク着用であるのなら、卒倒レベルの使い方であると言わざるを得ません。こんなマスクの表面、裏面共に雑菌だらけのマスクは、確実に雑菌・ウイルスの培養器、拡散器となっていると思います。これでは感染予防どころかマスクが感染拡大の原因となってるのではないかと思うこと然りです

老人介護サービス業は「究極の対人サービス業」であると私たちは考えます。聴力の衰えの著しい高齢者に対して、マスク着用による口元の見えないコミュニケーションは致命的であります。「相手の口元が見えないと怒っているのか笑っているのか分からない。職員の口元も見えないしマスクで声が不明瞭になるので何を言ってるのかわかりにくい」という入居者・利用者の声もかなり聞かれました。



9割が“脱マスク”に抵抗…小中高校生のリアル

そして、上記アンケート結果を見て下さい。「コロナに罹るのが怖い」などの理由は見つかりません。子供達のこの自己肯定感の低さ(絶句!)。大人達の罪は重い。子供達にこそ脱マスクをすすめていきたいのです。

やすらぎの里 施設長 浜川寿一